



発行所 アシュラムセンター
523-0894 近江八幡市中村町 567-2
Tel 0748-33-4030
Fax 0748-33-8856

アシュラムセンターホームページ
www.ashramcenter.jp

編集 アシュラム誌編集委員会

振替 01050-6-53772
アシュラムセンター

印刷 明文舎印刷商事(株)

解題

アシュラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。祈りの生活をもってみ自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

海外に出て一番困るのは、言葉の問題である。私など、英語も、ポルトガル語もほとんど話せないものにとっては、覚えてたのあいさつの次の言葉が出てなくて、ただ苦笑いするだけ。それでも大人は、「この人は喋れないんだ」とすぐ理解してくれるのだが、子どもはそう言うわけにはいかない。ブラジリアの若い夫婦と幼い子どもの家庭で、夕食に招いていただいた時のこと。6歳になる可愛い女の子は、祖母が日系人のクオーター3世。彼女は一生懸命ポルトガル語で、この異国の訪問者に話しかけてくれるのだが、こちらは何一つ理解できない。彼女は抜けたばかりの乳歯を見せて、ブラジルでは歯の間が空くことを窓が開くと言うのだと説明してくれているらしいのだが、返事のしようもなく、ただただ笑うだけ。ついには不思議そうな顔で彼女は私を見つめている。こんな時ほど、もっと語学を学んでいればよかったのにと後悔することはない。あの会話の中に、自分も入れたらさぞ楽しいのにと、どんなに思ったことか。しかし、この言葉の壁を克服するのは、そ

う簡単なことではないだろう。それはまた、日本に来る外国人にとつても、同じことなのだ。こんな笑い話を聞いたことがある。

ある日、日本語を習いたての宣教師の乗ったバスが、降りるはずのバス停を通り過ぎてしまいうるようになった。その時、彼は「殺してください」、「殺してください」と叫んだそう。乗客も、運転手も一瞬ギョッと

瞑想

キリストが死に、そして生きたのは、死んだ人にも生きている人にも主とされるためです。

ローマ14:9 (協)

主幹牧師 榎本 恵

は、死んだ人にも生きている人にも主とされるためです(「ローマ14:9」)。パウロの書いた書簡にも、この「死」が語られている。獄中書簡と呼ばれるコロサイ書の3章9節に書かれている「古い人をその行いと共に脱ぎ捨て、造り主の姿に倣う新しい人を身に着け、日々新たにされて、真の知識に達するので「脱ぎ捨て」と言う言葉の原意は「死刑にする、殺す」という意味だそうである(新共同訳注解)。私たちが、新しい人を身に着け、日々新たにされるとは、まさに毎日殺されなければならぬと言ふことに他ならない。

当時のアジア州やローマの教会で福音に出あい、一度は救いの確信を得たにもかかわらず、その内部で、強いものが弱いものを疎かにし、かつてのギリシャ、ローマの思想や哲学に心

を奪われてしまう信徒に向かって、パウロは、最初の頃の信仰に立ち返ることを勧め、今の悪習を厳しく非難し、新しい人として生きること、お互いを裁き、批判するのではなく、正義と平和に生きることを求めるのだ。

それはいまを生きる私たちが現代の教会にも当てはまる。激しい時代の流れの中にあつて、私たちはそれに翻弄され、時には溺れそうになる。十字架も復活も、再臨も、何か絵空事のように見え、単純な信仰者を心の中で笑い、自分をひとかどのものと自惚れる。しかし、その実、心の奥深くに、不安と恐れを抱きながら、砂を噛むような毎日を虚しく過ごす。そんな揺れ動く私たちに對して、聖書は、もう一度思い返せと、追ってくるのだ。

友よ、私たちは、この突き進むバスを降りなければならぬ。そしてその時には、「叫ぶのだ。」「殺してください」と放っておけば、すぐに揺り戻されそうになる自分を、日々脱ぎ捨て、新しい人となろうよ。そのために、キリストは死んでくださったのだから。

アシラムの証

広川 朋子

私は、ブラジル・ホーリネス・リベルダーデ教会の広川朋子でございます。

今回初めてブラジルアシラムに参加致しました。

コロナ禍の間、恵まれたことに祈りの友と聖書を学び、祈り会を毎週持つて、聖書の学びを続けていました。私はインターネットでいろんな先生のお話を聞き、聖書の理解も深くなったと自分で思っていたのです。

今日、コロナイ人への手紙の一章を45分かけてゆっくり読むようにと言われ、一生懸命集中し、一節一節を読んできてきました。こんなに丁寧に真剣に聖書と向き合ったことはありませんでした。



読み進めるうちに一カ所、9節の「霊的な知恵と理解力によって」という箇所が心に響いてきました。私の祈りの友たちは、「祈っていたら聖霊様に示された。」とよくいうのですが、私にはそういうことがなかったのです。この聖書箇所を何

度も繰り返し読んでみると、この箇所がどうしても気になって、そのうちにここが光って来たのです。

その時、窓から風が吹いてきました。いつもと違う風なのです。聖霊様が私に語ってくれていると感じました。心の底から湧き上がる思いがありました。突然、私は生きているんだ。と実感したのでした。

10節には、『主にかなった歩みをして、あらゆる点で主に喜ばれ、あらゆる善行のうち実を結び、神を知る知識を増し加えられますように。』とありました。

私は、聖霊様によらなければいけないんだ。聖霊様の助けなしでは神様を知る知恵と理解が与えられないんだと解ったのです。心を静めて一人で静かに聖書を読むこと。

なんとという素晴らしい時間でしょう。

インターネットで学んでいたことは知識を詰め込んでいました。

確かに聖書の理解は深まりましたが、神様と向き合うこと、自分と向き合うことをしていなかったことに気づきました。

このパウロは私のために祈ってくれたのだと思います。

27節に『あなたの方の中におられるキリスト、栄光の望みのこと

です。』とあります。

王座も主権も支配も権威も、すべて御子によって造られた。万物は御子によって造られた。御子のために造られた。そのイエス様が私の中におられるという事。もう一度そのことを実感し感謝でいっぱいになりました。

ふと時計を見ると55分が過ぎていました。慌てて昼食に向かった次第でした。感謝と共に素晴らしい学びの時間でした。

東岡三治師(引退牧師、1930年生まれ)が、3月4日、召天されました。

保郎師、ファミリー主による良きお交わりを続けて下さいました。(保郎師召天後も、学生だった恵師の保証人の任も)深い感謝を込め、東岡師の書かれた文をご紹介します。北米のアシラムの再開を祈りつつ。

北米アシラムの恵み

(アシラム誌1978年10月号より)

東岡 三治

思いがけなくも、神の召しに導かれて再度北米アシラムに参加

できました。昨年と比べて感じたままを記します。 出発の朝、レビの時



1976.1月・第一回年頭アシュラム(前列左方)保郎師は中央に。

間に、詩篇126篇5
16節を頂きました。
これは絶大な励ましで
した。一切を聖手に委
ねて大阪空港から飛び
立ちました。
二週間後の後、大阪
空港へ降りた時はあの
詩篇の約束通りでし
た。昨年北米側は、日
系教会宣教100年記
念行事という体制の中
で、我々一行を迎えて
下さいました。

こちら側にも、多彩
なタレントさん(ラジ
オ牧師として著名な正
木茂氏、福音歌手胡美
芳さん、俳優長岡輝子
さん他、金山良雄師、
橋本裕、るつ子夫妻
も)が祝されて用いら
れたので、各地で大盛
会でした。
ところが、今年はア
シュラム退修会一本の
旅行でタレントさんは
いませんでしたから、
不安でした。勿論昨年
は、故榎本牧師急逝と
いうショックの中で
の旅行団でしたか
ら、一同にも不安や
迷いがありました。
旅行を取り消したと
いう人々も続出で、
絶望的でした。

私は、榎本師の遺
志を、今とこの
年に生かすべきだ
と決意し、聖旨なら
ば榎本師の代役でも
しようと参加しまし
た。
昨年の聴衆、参加
者は多かったが、今

年は半減でした。しか
し内容は濃いもので、
聖書を中心とした交わ
りがありました。
主の恵みが豊かに注
がれ、思いに勝る聖業
を仰ぎ見ることができ
感謝でした。
アシュラム集会がも
たれたのは、昨年は
二ヶ所だったが、今年
は、シアトル、ロサン
ゼルス、ホノルル、サ
ンフランシスコ三ヶ
所、ヴァンクーバーの
七ヶ所でした。
今回は牧師よりも信
徒団員の活躍がめざま
しく、家長の役、証し
の奉仕などで全員が、
各所で御用を果たして
下さいました。
ジャパン・アメリカ
ツアーの安藤兄弟が、
心のこもった奉仕を進
んで下さったのも今年
も昨年と同じでした。
北米各地で迎えて下
さった同信の兄弟姉妹
の労に、心から感謝し
ています。

いえじま 雑記1 浮、(うき)



2月22日に三女が生まれました。その1ヶ月前に百々
子は救急搬送船で伊江島から運ばれていき、島に残された
私と娘二人は、3人で生活をしました。アメリカで2度、
出産を経験しましたが、確実にこの沖縄での出産が一番過
酷なものでした。今ではまた振り出しに戻るといった感じ
に、赤ん坊のお世話に励んでおります。思えば長女が産ま
れたのは、ちょうどこのイースターの時期でした。誕生日
には卵拾いをするのだと言って、張り切っています。あの
頃を思えば、家族の形も生活の環境も、すべてが変わりま
した。変わっていくということの中に、何か真実なものが
隠されているのかもしれませんが。イエスの死が復活を用意
したように、変わることに痛みが伴いますが、同時に可能
性が生まれる瞬間でもあります。子どもたちのように自分
を変えたいことを恐れずにいたいものです。赤ん坊は浮と
名づけました。真っ黒な海に浮かぶ救急搬送船がどうして
か、忘れられないのです。

榎本空

池谷治朗兄 早天祈祷会での祈り

私たちの弱さは計り知れない弱さで
す。

主がその弱さをを用いて、大きな大き
な一歩を踏み出す今日一日を与えて下
さっていることに感謝いたします。

(2021年3月23日)(9月27日召天)



早天祈祷会、ズーム参加、始まりは、池谷兄
から!(2021.3.20)そして池谷兄と祈り合
わせたい方々が加わり、今も生き続けている。



「和子母の部屋の天井に、去年からじーっと留まっているカメムシ。取ったらあかんよ。てる子かもしれん…」と。

「私の密室」 榎本 保郎

「彼らのうちだれが主の議会上に立ってその言葉を見聞きした者があろうか。

だれが耳を傾けてその言葉を聞いた者があろうか」(エレミヤ書23:18)

これは神が当時の宗教家について予言者エレミヤに語った言葉である。彼らは「主の口から出たのでない、自分の心の黙示を語るのである」とも主は語って居られる。

偽予言者とは、似て非なる基督者とは、この種の言葉の如く、神に聞こうとしないで、自分の判断や意見、考えて神を信じて行く人の事である。

祈に熱心であると神がかりだと嘲笑する人がある。神の働き等を強調するとあれは神秘主義だと判断する人がある。

けれども、神がかりだと云うあなたは何かかりなのか、神秘主義と判断するあなたは何主義なのか。私達はそんな言葉にまどわされてはならない。神を信じる者が神がかりであり、神秘的であって何が悪い。

こんなムードこそキリスト教を言葉だけの信仰にしているのである。私達は「私はあなたがたの祈を聞く」と云われた神の言葉を信じ「もしあなたがたが一心にわたしを尋ね求めるならば、わたしはあなたがたに会う」と約束された主を信じて「あなた」と呼びかけ給う主に祈ろうではないか。これが密室である。

今号は「わたしの密室」と云うテーマで編集した。多くの方々の証しを得て感謝である。益々この信仰の奥義を証していきたいものである。

「唯、朝毎に、神を求めることを辛抱強く続けなさい。どういうふうにも恩恵が来るかわからないでもかまいません。几帳面に忠実に、毎朝毎に唯独り神と偕にありなさい。あなたは育ちます」(アンドリウ・マーレー、暁の待望より)

密室にとって大切な事、それは「続ける」と云う事である。そして私共が祈り続けるために必要な事、それは時を定めて祈る事である。しかもその時は一日の始めであり、静寂な朝が最適である。

「主のいつくしみは耐えることがなく、そのあわれみは尽きることがない。これは朝ごとに新しく、あなたの真実は大い」(哀歌3:22-23)と歌った聖書の人は朝毎の祈りの恵みを証して居る。

「祈禱を以て一日を始むべし、これ最も適はしく又うるわしきことである。毎朝イエスと語る十分間否二分間にも、我らの一変える力がある」(T・K・ミラー)

時々祈る、気のむいた時だけ祈ると云う祈りはキリスト教の祈りではない。なぜならその祈りは神中心ではなく、自己中心であるからである。祈り続けることこそ神に自らを合わせて行く祈りである。

—アシュラムセンター開設50周年を2年後に控えて— ガリラヤ第3号(1962年3月発行)より



今治教会から近江八幡市アシュラムセンターに移った年 1976年

「神のなさることは、すべて時になつて美しい、やな。辛い時も、悲しい時も、いっばいあるけどな。やっぱり神さまのなさることは、時になつて、美しいやな。」(天井を見つめながらしみじみと…) 榎本和子 2023年2月



←京都葵教会(和子母在籍)、内山牧師ご夫妻が、天使?いこいちゃん(生後半年あまり)と共に。



←恵師帰国、2日後にセンター聖書教室。詩篇143編。久々のるっちゃんるんるん福音食堂!

→2月、センター近くに引っ越された樋口ご夫妻と。長女の希姉も京都より。和子母起き上がったのですね!(るっこ姉撮影)



→夕礼拝も再開。各地から視聴の皆様にも感謝!青年達の参加あり、青年達のアシュラムに向け、お祈りください。天上の池谷兄からも託され...



第48回
年頭アシュラムにて
語られた

主幹牧師の2022年度の振り返りと2023年ビジョン(3)

さて、私たちの戦わなければならない悪魔の策略には、もう一つ、大事なものがあります。それはマモン、金銭なのです。

一「私たちアシュラムセンターも、昨年の夏、財政の危機を迎えました。一昨年購入した「アンナ祈りの家」の返済が重くのしかかり、運営のために内部留保していた資金が底をつき始めました。その頃の常任運営委員会は、実に重い空気の漂うものでした。悲観的な話が先行し、少しでも希望のあるようなことを発言すると、楽観的すぎるのではという雰囲気があふれていました。

しかし、そんな中で委員の一人一人は真剣に祈ったのです。祈りに祈ったのです。神は、その祈りを確かに聴いて下さいました。いや、そんな私たちの思いを遥かに越えて、神はその業を成し遂げられたのです。

5年で完済する予定をたてていた「アンナ祈りの家」の返済が、この1年で、1500万円あまりもの献金が集まり、後残すところ250万円になったのです。5年間毎年、440万円もの返済をしなければならない、その返済に頭を抱えていた私たちに主は見事に応えて下さった。

アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神は、今も生きておられる。私は今回の出来事を通し、そのことを確信するとともに、自分の信仰の薄さ、罪深さを告白し、懺悔いたします。

35年前、主幹牧師を突然失い、途方に暮れた先達たちが、しかしなおこの生ける神に信頼し、その生ける神の導きによって今ある。私にとって、このことを我が身を通して知ることができたこと、これこそがこの節目の年の記念と

なったことを、まず皆様に証しいたします」—
〔「2013年主幹牧師のビジョン」より〕

今から、ちょうど10年前の年頭アシュラムで、語られたビジョンです。改めて過去を振り返る時、いつもそこにこの金銭という悪魔の試みのあることを覚えます。

会計報告にもありましたように、アシュラムセンターの財政は、潤沢なものではありません。土地や建物は増えてはきましたが、今もあの頃と何ら変わってはいないのです。毎月ごとに赤字で推移し、累積額が増え、年度末が近づくと、常任運営委員一人一人の口も重く険しいものとなってきます。

けれども、本当に不思議なことに、決算をしてみれば、全てが満たされている、こんな経験を、本年もまたすることができたのです。

「壺の粉は尽きることなく、瓶の油もなくならなかった」(列王上17:16)。

熱心な祈り、主に依り頼み、主に祈ること、これこそが、金銭の悪魔に立ち向かう私たちの大いなる武器なのです。(続く)



アンナ祈りの家は、シメオン黙想の家と並び、用いられています。皆様の祈り、お支えに感謝致します。写真は、リトリート前日夕。

あとがき

1ヶ月にわたる海外宣教の旅を終え、ますますこのことの重要性を感じている。パウロは獄中から、アジア州にある教会に、また、また見ぬローマの教会の信徒に手紙を書き送った。顔と顔を合わせて、あなたの方と会いたい。囚われの身にあつて彼はそれを熱望した。手紙という手段を用いながらもなお、自らがそこへ赴き直接伝えたいと願ったからだ。

コロナのパンデミックによって、アシュラムも国内ばかりでなく海外へもその道が閉ざされ、4年余りが経つ。その間のインターネットによる情報の交換は、目を見張るものがある。私も台湾で、ブラジルで、そしてアメリカで、早天祈祷会をZoomによって、全国のアシュラムの友と守ることができた。また、それは最も簡単に世界中を繋ぐことができる。しかしながら、そうであったとしてもなおパウロが言う「神が御言葉のために門を開いてくださり、わたしたちがキリストの秘められた計画を語るることができるように。」(コロ4:3)の言葉を叫ぼう。

どうかこれからも、このアシュラムの働きが、日本にそして世界に広がるように。どうか、祈りを合わせて欲しい。

(恵)



敬愛する兄弟の皆様の皆様のみことばの贈り物と、誕生のお祝いに感激致しました。ご自愛の上、主の平安の内に歩まれますように！
山岡朱美姉(愛知)



〈誕生日カード感謝のお便りより〉
励ましの多くのみ言葉と、各地からのお名前に感謝、又、数年前に参加させて頂いたアシュラムの祈りの友を思い出し、日々皆様の祈りに支えられている恵みを感謝です。関根浩介兄・悠紀子姉(埼玉)

中止、又はオンラインに変更もあり。
ホームページ、電話等でご確認下さい。
直前の変更の場合あり！

4月の聖書教室など

【主な問い合わせ先】
0748-33-4030
アシュラムセンター

4(火)	Zoom聖書教室 (AM10:30、PM7:30)
7(金)	阪神ミニアシュラム (神戸聖愛教会 PM1:30)
8(土)	聖書と学ぶ会 (Zoom PM8:00)
10(月)	福岡聖書教室 (博多クリオコートホテル PM1:30)
16(日)	ちいろば牧師記念チャペル夕礼拝 (PM5:00)
17(月)	箴言に学ぶ会 (ZOOM AM10:30、PM7:30)
18(火)	大阪聖書教室 (大阪クリスチャンセンター AM10:30)
19(水)	みんなのカフェちいろば聖書入門講座 (京都・伏見区深草 PM1:30)
21(金)	センター聖書教室 (アシュラムセンター AM11:00)
24(月)	静岡聖書教室 (旧・英和女学院宣教師館 AM10:00、PM1:30)
25(火)	東京聖書教室 (御茶ノ水クリスチャンセンター 4F AM10:30)
25(火)	しみじみする会 (桜美林大学荊冠堂チャペル PM2:30)
26(水)	美しい足の会 (Zoom AM10:30、PM7:30)

4月のアシュラムなど

20(木)	2023年 修道場アシュラム②	0748-33-4030
22(土)	アンナ祈りの家、シメオン黙想の家	アシュラムセンター
28(金)	第25回 阪神一日アシュラム (神戸聖愛教会) 奉仕者 榎本 恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター

ご参加
受付中!

5月のアシュラム予定

3(木) ~ 5(金)	第31回 盛岡秋田アシュラム 癒しの宿 □デム 奉仕者 榎本 恵師	090-8841-4228 角谷晋次師
18(木) 20(土)	2023年 修道場アシュラム③ アンナ祈りの家、シメオン黙想の家	0748-33-4030 アシュラムセンター
20(土)	第21回 愛知一日アシュラム (日本バプテスト連盟名古屋キリスト教会) 奉仕者 溝口 勝幸師	0562-47-0528 溝口勝幸師

6月以降のアシュラム予定

6月17(土)	新潟一日アシュラム
6月19(月)~21(水)	第47回 教職アシュラム
6月23(金)前後	沖縄巡礼の旅 (22日合同慰霊祭)
7月8(土)	第4回 四国一日アシュラム
7月20(木)~22(土)	2023年 修道場アシュラム⑤
9月28(木)~29(金)	第11回 日光オリブの里アシュラム
10月30(月)~1(水)	第18回 国際正義・平和アシュラム in 新潟
11月1(木)~3(土)	第48回 京浜アシュラム

みことば



シメオン庭の花

日本基督教団仙台宮城野教会牧師
アシュラムセンター協力牧師
齋藤 篤

主はご自分の瞳のように民たちを守られた。

申命記32章10節

榎本空さんからバトンを受けて「みことば」を担当いたします。どうぞよろしく願いいたします。2025年のアシュラムセンター50周年に向けて、榎本恵先生をはじめアシュラム運動を愛する皆さまをお支えしつつ、自分に与えられた務めを、ただ神が与えてくださる御言葉と聖霊の助けをいただきながら、歩んでまいりたいと願っております。

エジプトの奴隷状態から解放したいと願われた神は、モーセを指導者として立てました。そして、モーセをはじめとするイスラエルの民たちは、神が指し示された土地を目指して歩み始めました。しかし、その旅路は決して順風満帆なものではありませんでした。民たちの不平不満がその旅路を邪魔しました。その結果、40年ものあいだ、民たちは苦しみの道を歩まなければなりません。

モーセは、その旅路の終わりに、民たちに向けて語られました。主なる神は私たちをご自分の瞳のように守られたと。瞳が無ければ、私たちがものを見ることができない。無くてはならない大切な存在として、神は守ってくださったというのです。さんざん苦しみを経験した末の言葉とは到底思えない、衝撃の、しかし真実に満ちあふれた言葉をモーセは発したのです。

苦しみに秘められた神の愛。実は民たちの苦しみは神の苦しみでもあったのです。神は苦しみながらも民を愛されたのです。苦しみの道とは愛の道。苦しみながらも生み出される愛こそ、私たちに命を与え、その命の日々を歩ませる礎となったのだと。それは、十字架という苦しみの道をただただ歩まれた、救い主イエスの示された愛に直結します。

この愛を、私たちはみことばに聴くための土台とするならば、私たちは日々与えられる神の言葉が生きる希望となっていく。アシュラム運動に示された精神とは、まさに「瞳」なのだと思えてならないのです。

和子母は齋藤師のことをいつも笑っている先生と呼び、慕う。センターとも師の笑顔や助言に励まされている。(ローズンゲン) 日々の聖句(編集者)



←今年1月常任運営委員 会前シメオンに宿泊され、和子母と齋藤師の穏やかなひととき。